

~ Evian エビアン ~

《2003年：エビアン市ホームページより抜粋・翻訳しました。》

Location (場所)

エビアンはレマン湖南岸にあるフランス、オートサボア県北部にあります。人口約 7500 人のこの町は、シャブレ地方、アルプス山脈を背に湖沿いに位置しています。雄大なアルプス山脈とレマン湖の間にあるこの町は、美しい景色や国際的リゾート地として有名であり、そしてなによりもナチュラルミネラルウォーター「エビアン」の生誕の地として世界中に知られています。また、エビアンの町には数多くの文化的遺産に値する建築物があり、訪れる人を楽しませています。

Around Evian (エビアン周辺)

エビアンの町から伝統的な漁村の村、中世そしてルネッサンスの面影を残す城、魅力ある美術館、壮大な景色を求めて気軽に出かけることができる。

France (フランス側)

Castle of Ripaille (リパーヤ城) . . . Thonon トノン

湖沿いにある 15 世紀に建てられた城。最初のサボア公爵アメリ 8 世の邸宅。

Lake Geneva museum of traditions and boats

. . . . Saint-Gingolph サンシャンゴルフ

1588 年に建てられた城がある。この博物館では、昔の森林地区、湖での生活について知ることができる。

Yvoire, medieval village (中世の村、イボア)

フランスでもっとも美しい村のひとつといわれている中世の面影を残すイボア。沢山の花で飾られた通り、漁師小屋、城、「五つの感覚」を持つといわれるすばらしい庭がある。その昔、城の野菜畑であったその庭は、壁でしきられた中世風に造り直された。五感をテーマにした野菜畑の迷路は芳香、薬草植物、バラ、この地方では珍しい果物が植えられている。

Thollon-les-Mémises and its panoramic view of Lake Geneva . . . トロン

エビアンから車で 15 分。ウインター、サマースポーツの名所。

ケーブルカーに乗れば、数分で沢山のハイキングコースを持ちレマン湖を見渡すことができる壮大なパノラマにたどり着くことができる。

Vallée de Bernex (ベルネックス渓谷)

エビアンから車で10分で到着する山(ドンドッシュ)の影になるベルネックス渓谷は、オートサボア県の中にある渓谷の中で類を見ない谷。

ハイキング、ウォーキング、ウインタースポーツの名所。

Winter sports on the Balcons du Léman

エビアンから車で15分。素晴らしいシャブレ、アルプス地方のスキー場、渓谷に行くことができる。その頂上からは、レマン湖、モンブランの両方の景色を見ることができる。

Swiss (スイス側)・・・

Castle of Chillon (シオン城)・・・Motreux モントルー

湖沿いの岩地に立つ封建時代の雰囲気を残す壮麗な城。城内には当時の家具、陶器類などのコレクションが展示されている。

Museum of the Olympic Movement (オリンピック博物館)

・・・Lausanne ローザンヌ

オリンピック国際委員会がスイス、ローザンヌに建てた博物館。オリンピックの歴史について知ることができる。エビアンから船で35分の距離。

The Gianadda Foundation (グラナダフォンデーション)

・・・Martigny マティニー

絵画、彫刻の展示会。

The Swiss Vapeur parc・・・Le Bouveret

(スイス バッパーパーク・・・ルブルレー)

ミニチュア模型で作られた世界をミニ機関車で廻ることができる。

History (歴史)

Tale of a discovery (エビアン水発見にまつわる話)

1789年、フランス、オルヴェーニュ地方から Marquis de Lessert (レザート公爵) がエビアンの町を旅していました。のどが渇いた公爵は、カシャ氏が所有する聖キャサリーンの泉の水で喉を潤しました。ところが、腎臓、肝臓の病を患っていた公爵は、この水を飲む度に自分の体がみるみる元気になっていくのに気づき、この水のすばらしさを誉め称えました。そして、医者たちもこの水を病気の治療に使い始めました。これに気づいたカシャ氏は泉を柵で囲み売り始めました。これが、カシャの泉、そしてエビアンミネラルウォーターの始まりということです。

Historical tour (歴史の旅)

エビアン市観光局から出発し、14地点を廻るこのヒストリカルツアーでは、水の町として発展していった町の歴史、また建築物からは中世から Bell Epoch ベルエッポク（フランスで文化、芸術の栄えた19世紀から20世紀初頭）の時代を感じ取ることができる。（このツアーの所要時間は1時間半。英語、ドイツ語のガイドが予約できる。）

The Source Cachat griffon（カシャの泉）

ローマ時代からある聖キャサリーンに捧げられたこの泉は、エビアンの町の中にある泉の中で最も有名な泉。1903年に建てられ、年中この泉からのどを潤すことができる。この泉の反対側にある丸天井を持った建物が最初の水治療施設 Thermel de Fauconnet（フォンコーネント水治療施設）であり、現在、屋内はエビアンミネラルウォーター展示ホールとなっている。また、この他 Source des Cordeliers（コルドリエの泉）は、カシャの泉の東側にある。

Evian Mineral Water Exhibition Hall（エビアンミネラルウォーター展示ホール）

ここでは、エビアン水を様々な角度（その起源、特質等）から、パネル、フィルム、ゲームを通して知ることができる。

Evian Mineral Water bottling plant（エビアンミネラルウォーター製造工場）

エビアンミネラルウォーターの歴史を知ることができると同時に、世界中の町で売られているエビアン水の製造から出荷までの全過程を見学することができる。

De Brunarius Sps establishment（ブルナリウス水治療施設1900 - 1902）

この堂々たる建物は、エビアン温泉の本場であり、1902年から1984年まで開かれていました。現在は、使われていませんが、将来、エビアン市文化・会議場センターとして作り直される予定です。

しかし、かつて水治療場として使われていた場所、現在のレセプションホールのみ一時的な展示会が行われている時に限り訪れることができる。

Culture（文化）

中世、エビアンの町はレマン湖沿いの商業港であり、繁栄した経済の中心地であった。そして、サボア公爵夫人の好んだ保養地でもあった。

18世紀後半（1790年）エビアンミネラルウォーターの発見は、この町の運命に大きな衝撃を与えた。1826年には、最初のミネラルウォーター会社、水治療施設（Fauconnet Hydropathic Establishment）が設立される。

更に、「水の町」としての大きな発展は、Theatre（劇場）、Brunarius thermal spa（ブルナリウス水治療施設）、Cachat pump room（カシャポンルーム）、Hotel Royal（ロイヤルホテル）、Funicular railway（ケーブルカー）、Casino（カジノ）の設立をもたらした。

Funicular railway（フェニキュラー）

1907年に設立され、カシャの泉を通りブルナリウス水治療施設からロイヤルホテルま

で750mの長さをつないだ Funicular railway (ケーブルカー)は、2002年夏、30年の時を経て再び運行を開始した。現在、車両はベルエッポック風に復元されている。

The Theatre (劇場)

過去数年に亘り修復され、19世紀この町が水の町として栄えた証拠にもなるこの建物は、真の歴史的傑作物といえる。

一般への公開は劇場の上演(特に夏シーズンのイベント)の時のみに行われる。

The Lumière villa (ルミエ邸)

かつて、ルミエ家(映画の発明者)の夏滞在用別荘であった。この建物の建設は1865年に始まる。1927年からエビアン市役所としてこの建物を使用。この邸宅は、クラシック、フレンチルネッサンス様式を反映させたもの。

ホール、メインルーム、ゴールドルームは、市役所が開いている時のみ一般にも公開されている。

Lakeside tour (レイクサイドツアー)

湖沿い15箇所に設置されている案内板は、レマン湖、釣り、魚、渡り鳥、植物について野知識が得られる。

Boat trips on the barque (small sailing boat), La Savoie

(帆船「サボア」での湖の旅)

かつて1900年、60もの帆船がレマン湖を貿易のため往復していた。帆船「サボア」は、今日、フランスにおける最も大きな歴史的遺産物の復元である。

元来は、180トンの石を運ぶことができたこの帆船は、現在、湖の長い歴史を思い起こさせる船の旅へ乗客を運んでいる。

Musical fountain (音楽の噴水)

ヨットハーバーの隣にあるこの噴水は、クラシック音楽から現代音楽を奏でる。

The Prélude Museum of popular art and tradition

(プレリュード美術館)

山間部で使われた道具、個人所有物を集めたこの美術館では、大昔の山での生活がどのようなものであったかを知ることができる。

Les Escap Art (芸術への道)

レマン湖流域のスイス側マーティニー、ジュネーブ、ローザンヌで開かれる最も美しいと評判のある美術展示会

Floral decoration a tradition (花の伝統)

エビアンEvianの町は、19世紀から受け継がれている「自然の伝統」によって特別に整備された自然環境を得ている。「ガーデンタウン」としてアレンジ（整備）され、高質な芝地、樹木が植えられている。この長い花の伝統に加え現在エビアンは、フランスで最もフローラルなタウン「花で飾られた町」とされている。

Evian., garden town（エビアン、ガーデンタウン）

古くから水の名声、環境は多くの公園の建設を導いた。19世紀初頭にスパ（温泉）、ホテル、個人の邸宅の周り、町の坂道に植えられた花々、樹木は今日の自然の風景と調和している。エビアンEvianの公園の殆どが英国風庭園としてデザインされている。曲線の小道は様々な形と大きさの芝地を分け、樹木、色とりどりの花々が植えられている。その中で特別なものは、「日本庭園」である。貴重なミニチュア、沢山の針葉樹、様々な低木でデザインされた庭園は写真家にとって理想の装飾である。公共の公園として波止場近くの散歩道沿いに植え込みが作られている。ここは、ロマンチックガーデン、英国風庭園、姉妹都市であるスペイン Benicassim、ドイツ Neckargemund の名にちなんだ庭園である。

一年に四つの花の季節を持つエビアンは、季節のリズムに合わせ様々な花の装飾で町を飾っている。

Evian wins town in bloom award

エビアンEvianの町は、1968年以來、「花の町」として高い評価を受けている。

1986年、President of the Republics Prize

1991、1994、1997、1998、2000年 The National town in bloom

2002年、The European town in bloom competition

それぞれで金メダル、特別賞を得ている。

The Pré-Curieux, water gardens（プリクリュ、ウオーターガーデン）

エビアンEvian市議会、オートサボア県議会、ローヌアルプス地方議会の協力を得て作られた湖沿いの環境保護地区、The Pré-Curieux プリクリュ「ウオーターガーデン」は、湿地帯に関する様々な発見をすることができる特別な場所である。

Pré - Curieux、プリクリュ、ウオーターガーデン

1998年、アメリカ、ラムサール条約の締結等の協力を得て、エビアンEvian市と湖保護団体は、この一帯を「研究地区」また「国際湿地地帯コミュニケーションセンター」とした。公共に開かれている場所は、ラムサール条約に属する一帯で世界中から多くの研究者を迎え入れている。湖沿い、エビアンEvian市の西側の入り口にあたる場所には、木で茂った面積3.5ヘクタールの公園を持つコロニアル風の邸宅がある。ガイドの説明により邸宅内の展示、湿地帯の機能、富、もろさを知ることができる。

The water garden（水の庭園）

公園内を歩くと、様々な生態系を持った池、プールを発見する。

人工的な水の庭園内のプールには、鯉が泳ぎ、睡蓮、きんぽうげの花が咲いている。自然

に作られた水の庭園には、様々な植物や動物が保護されている滝、池、湿地、三角州（デルタ）がある。

Tradition（伝統）

エビアンは、自然に溢れたリゾート地であるとともに、25,000人の人口を持つ周辺地域の中で、年中活気に満ちた商業の中心地でもあります。その地方色に富んだ商業は人との触れ合いそして暖かい歓迎を与えてくれる。

食料品地域特産物、衣料品、服飾雑貨品、宝石、眼鏡商、土産品、家財道具、陶器、スポーツ、レジャー、電話、写真、音楽、美容、花、クリーニング、ワインセラー、また、銀行、保険、自動車学校、不動産、郵便局、交通機関、病院などあらゆるサービスが兼ね備えられています。

Evian and the Artistic Professions（芸術、職人の町）

「芸術、職人の町」として国の指定を受けているエビアンには、芸術家彫刻家、画家、ガラス工芸職人等の職人が多数住んでいる。

The Markets（市場）

火曜日と金曜日の午前中、Place d'Allinges（エビアン協会広場）で開かれるオートサボア地方色あふれた市場。主に地方特産チーズ Reblochon（リブロション）、Tomme（トム）、Abondance（アボンダンス）、生ハム、レマン湖で獲れた魚を買うことができる。

A setting for your conference（会議場設備）

湖と山に挟まれた独特の環境、国際的リゾート地としての魅力、高品質のホテル、設備は年間を通じてエビアンの町を申し分ない会議、セミナー展示会の場としている。

The Evian Congress Hall（エビアン市会議場）

この施設はレマン湖に近い町の中心にあり、高度な実用性、機能性設備を持っていることが特徴である。40から600人を収容できる7つのホールを持ちあらゆるイベント（展示会、会議、発表会、宴会）に対応できる。

Thermal（温泉）

The Evian Spa Bath（エビアンスパバス）

エビアンスパバス（又は、エビアンエステティックセンター）でのトリートメント（治療）は、ストレスを取り除き、体内の活力に刺激を与え、体を有酸化することで精神状態に落ち着きを与える。そして、昔から引き継がれた治療法に、最新の技術を取り入れ、幾度もの試

験を重ねたエビアンスパでの治療は、体内で長時間に渡り持続することのできるくつろぎと健康回復を与える。

プログラム（参考例）

Evian Mother and Baby

母と子供（3ヶ月から9ヶ月）のためのプログラム。

水治療、リラックス、美容のためのケア、ジアテルミー（高周波の透熱治療）等。

Evian awakening

最高の水治療により体内の活力、バランスまた美容の回復を促す。

Evian back to the source

水治療そしてオリエンタルな「禅」マッサージに、5つの治療を加え体内の活力、健康回復を促す。

The Evian Liberty day

モイスチャニング、フット（足）マッサージ、その他高圧シャワー、マッサージバスにより体に休養を与えるための治療。

The Evian re-birth day

エッセンシャルオイルを使ったマッサージ、スパバス（温泉）により長時間持続することができる休養を与える治療。

その他・・・トレーニングルーム、トルコ式お風呂、サウナ、ジャグジーあり。

エビアンスパでの治療は・・・

泌尿器、慢性の新陳代謝、消化器系の病気、心的外傷、リウマチの治療に聞くといわれている。

Leisure（レジャー）

湖と山とのコンビネーション（結合）は、エビアンの町に多くの理想的な活動の場を与えている。

同時に、山でのハイキング、また湖でのヨット遊びに行くことができ、休日には昼はゴルフコースを廻り、夜は家族とミニゴルフが楽しめる。

また、多くの公園、庭、港の景色は想像以上に人々の心を楽しませてくれる。

Evian Masters Golf Club（エビアンマスターズゴルフ）

世界的に有名であり、最も大きなレディースゴルフトーナメント「エビアンマスター」の開催地。

その他のレジャー

エビアンテニスクラブ

ロイヤルパークテニスクラブ

ミニゴルフ

マウンテンバイク

ローリング

セイリングスクール

カヌー

乗馬

Swimming Pool-beaches (スイミングプールビーチ)

・・・湖沿いにあるエビアンビーチは3ヘクタールの芝地とフラワーガーデン、2つのプール、160mの滑り台を持つ。

Events (イベント)・・・2003年版

Evian carnival (エビアンカーニバル)

仮装したグループ、ジャズバンド、何百人もの参加者、そして素晴らしい天気の下行われるカーニバルパレード。

4th International Clairvoyance Fair (第4回国際占いフェア)

星占い、数占い、タロット占い、手相占い等が一堂に集まる国際的占いフェア。

Festival of French Hairdressing on the Banks of Lake Geneve

(フランスヘアードレッサーフェスティバル)

第一線で活躍するヘアアーティストが集まり競う理容、美容コンテスト。

Evian Golf Cup (エビアンゴルフカップ)

エビアンマスタークラブコースで行われるゴルフトーナメント。

10 Days of Contemporary Art Exhibition (10日間だけの展示会)

10日間のみ行われる美術展示会。波止場、公園、会議場、町のいたるところで芸術を堪能することができる。

The Music Stopovers (ミュージックストップオーバー)

森の中にあり、壮麗な環境を持つ音楽堂、la Grange au Lac「湖沿いの小屋」での演奏会では、心に響く音楽への旅へと連れて行ってくれる。

Hot Air Balloon Encounters (気球大会)

フランス、スイスのバルーンリスト(気球操縦者)が一堂に集まり、様々な色、形の気球が

エビアン、レマン湖上を舞う。

The Alps Cup Motor Rally (アルプスカップモーターラリー)

200台も50から80年代のラリーカーがアルペンロードを通りジュネーブから地中海へと連なっていく。

Mundicup2003 football tournament

ヨーロッパの様々な国のサッカーチームが集まり競い合う「エビアンでのワールドカップ」

2nd Antiques Fair (第2回アンティークフェア)

芸術品、アンティーク家具の展示と販売。

10th Evian Ladies Golf Masters (第10回エビアンレディースゴルフマスター)

世界の第1線で活躍する女性ゴルファー達がエビアンマスターゴルフに集まり競い合う。

2nd Boats and Notes Festival

エビアンの町は湖、船乗り、伝統的な音楽、湖での生活を祝う。

Fireworks on the lake (エビアン花火大会)

7月14日のフランス革命記念日の夜にレマン湖上で打ち上げられる花火大会。

The Summer Theatre Season (サマーシアターシーズン)

毎年7月中旬から9月まで、新古美術派芸術作品展が開かれる。

Show at the Maison des Arts Thonon-Evian

隣町トノンとエビアンでは年間を通じて様々なショー、音楽、劇、ダンスのプログラムが企画される。

Evian Casino (エビアンカジノ)

257台のスロットマシーン、163台のone arm bandits (腕相撲マシーン)、94台の電気one arm bandits、ポーカーマシーンがそろそろ。

午後3時から、ゲームテーブルでルーレット、ブラックジャック、バカラが楽しめる。

その他・・・ホテル、レストランリスト等・・・

HISTORICAL TOUR OF EVIAN (エビアンヒストリカルツアー)

CHURCH OF OUR LADY OF THE ASSUMPTION

(ノートルダムエビアン教会) 13 - 15 世紀

13 世紀後半サヴォイ公爵ピエール 2 世により建てられたこの教会は初期のゴシック芸術の物である。

建物は、14 世紀後半、15 世紀初頭、そして 17 世紀から 20 世紀にかけて数回修復されている。最も重要な修復は、1926 年に行われたものであり、教会の身廊が西側に拡張され、現在のローマ、ビザンチン様式のペディメンタルな入り口が建てられた。

教会の尖塔には半円状の窓が造られ、1823 年には先端部を石でできた丸天井に取り替えられた。教会内、身廊には狭い側廊の支柱間の壁に刻まれた六つの十字架と支柱の頂上の柔らかい石の部分には、植物、かぎ模様に彫られた部分がある。釣鐘堂の下にある内陣は、14 世紀後半に開けられた大きな五弁飾り（梅鉢形）の三重の窓で取り入れられる光で明るくされている。

建物内部には、14 世紀から 19 世紀にかけて多くの建物内で見られたフレスコ画の復旧作品が飾られている。内陣の中にあるクルミ材でできた聖歌隊席は、15 世紀半ばのフランボワイアン新ゴシック様式の代表作品である。それらは、19 世紀前半立て直された。イコン画のテーマによく使われている初期のキリスト教伝道者（パウロ等）が描かれている。Aosta アオスタ（イタリア）、StClaude セントクロード（フランス）地方で発見されたゴシック様式の一連のものであるとされている。また、教会内には貴重品のひとつである 15 世紀後半の作品、金入りに彩られた木に描かれた多色画の聖母像のレリーフ（浮彫）がある。これは、1493 年、サヴォイ公爵アメディー 9 世の娘、Louise ルーズにより Orbe オーブ（スイス）の修道女に与えられたものである。

RUE DELEGKISE (CHURCH STREET、教会通り)

正面の 2 つの窓と中庭への入り口であるアーチ門は、15 世紀後半から 16 世紀初期に建てられたものである。中世の要塞都市の珍しい名残であり、貿易地として栄えた証である。

THE MARKET SQUARE (マーケットスクエア、市場)

マーケットスクエアは、13 世紀から 15 世紀、サヴォア公爵領の行政、政治の中心地であった中世の都市の面影を残す。

市場は、中世、レマン湖沿いの商業地として栄えた活動の場であった。また、サヴォイ公爵領の兵器庫でもあったこの町は、鍛冶屋、大工、機織職人、なめし皮業者など多くの職人を引き寄せた。

湖での輸送をおこなっていたエビアンの船頭は、湖畔に位置するこの市場の端で商品の積み入れを行った。港はレマン湖南岸で重要な役割を果たし始め、商人たちが湖を渡りローヌ川を渡ってジュネーブ、リヨンの定期市に荷を運ぶための重要な港となった。広場の頂上にある大きなホール（現在の郵便局）は、13 世紀後半から精肉業者を収容した。当時使われていた見事な石のはかりがこの建物内の共有オープンのあった場所で発見された。ここでは地方特産物も売買され、また異国風のもの（ロンバルド人により売られた布、鏡、豪華な品々）も売られた。エビアンの定期市は 18 世紀後半まで有名であり、約 7 世紀の間、毎週月曜日

にこの広場で市場は開かれていた。

CASTLE OF THE COUNTS SAVOY (サヴォイ公城) 13 - 15 世紀

約 2 世紀間、エビアンはサヴォイ公爵の好んだ滞在地であった。サヴォイ公爵ピエール 2 世は 13 世紀半ばこの城の建設を始める。

邸宅は、四方をそれぞれ 45 メートルの壁で囲まれ、それぞれの角には塔が置かれた。城へ入るには西側にかかっていた跳ね橋を使っていた。城内には、教会、池、庭、果樹園があった。1390 年の火災により建物の一部が崩壊した。中世の要塞都市は、サヴォイ公爵アメディー 8 世の時代の建設長であった Aymonet Corviaux (エイモネ コービュー) により、窓の縦仕切り、レンガ屋根を持つ堂々としたルネッサンス初期様式の造りに再設計された。13 世紀初頭から要塞としの一側面には円形の塔が取り囲むように建ち町をまもっていた。14 世紀初頭。町の広さが制限され、La Touvière (ラトビエ) 地区が町の東側の城壁として建てられた。15 世紀後半サヴォイ公爵が城を去ってからは、城と要塞は 1536 年から 1569 年まで、スイス Valais (ヴァレー) 地方の支配下に置かれ修復された。1591 年には、町を包囲したフランコジュネーブ軍勢により町を拡張するため建物は破壊された。現在の荒廃した建物後は 17 世紀の遺物である。その後、St.Clare (セントクレア) の修道女と Cordelier (コルドリエ) の修道士たちはそれらを修道院施設として使うことを許された。また、後に革命軍が逃れるためにも使われた。

THE MEDIEVAL HOSPITAL (中世の病院)

1355 年のこの遺物はエビアン市病院施設の基礎である。

エビアンの中産階級の家生まれ育った未婚の女性 Permette Grenat (パーネットゴナー) は、彼女の家と財産を貧しい市民、ハンセン病患者、巡礼者を助けるために町に譲り渡した。14 世紀後半に認められたこの施設は、それまでの慈善施設に代わりその役目を果たした。病院は市や宗教的な意味を持つ慈善施設として、合法的な代理人、市議会によって運営された。牧師または、農夫が年に一度の会計報告を行った。町の (無料又は低料金) 診療所、老人ホーム、また旅行者を受け入れるこの施設は、泊まる場所を求める巡礼者、貧しい人々に三日間食事と寝る場所を与えた。また、毎晩町から保護される 6 人の貧しい人々をも収容した。この施設に滞在する人々は、それぞれ男性、女性、牧師、旅行者にわけられた。牧師は、この施設内の教会で儀式を執り行った。また、この施設は時により給与支払場、金貸しも行った。17 世紀初頭、建物は Bergundy (ブルゴーニュ) 地方の職人たちにより修復され、1865 年、Viollet le Duc (ヴィオレラデュック) に修復される。建物正面、一階にはゴシック様式のアーチ門があり、二階には一階のアーチ門の上に縦仕切りのある窓がある。いずれも 15 世紀の遺物である。時計塔には 1865 年、切妻屋根が置かれている。病院は 1860 年に移転し、建物は 20 世紀初頭までこの場所を管理していた市に譲り渡された。

THE CACHAT PUNP ROOM (カシャポンプルーム) 1903

フォンコーネット水治療施設 (1826 年設立) 跡に建てられたカシャポンプルームは、1930 年

代に完成。

Hotel Royal (ロイヤルホテル) Casino (カジノ) を手がけた Jean Albert HEBRARD (ジョン アルベルト エブラル) が設計を担当する。Water Temple 「水の寺」としてデザインされ、木とガラスでできた第ホールはガラススタイルの丸天井を持ち、大きなステンドグラスの窓からは沢山の光が入る造りになっている。

rue Nationale (ナショナル通り) 側には、入念に細工された見事な鉄製のカシャポンブルームへの入り口がある。反対側 (avenue des Sources、泉通り) には、テラスが開かれており、そのテラスの両側にある遊歩道に沿ってヤシの木が植えられていた (東側のテラスのみが時計台の下に今も残っている。)。ここは、夏の間、モーニングコンサートが開催されていた場所だった。

建物一階には、カシャポンブルームの運営を行うミネラルウォーター会社、PLM 鉄道会社の事務所があった。二階には、社交場の中心であったポンブルームホールと休憩場があった。この場所の中心に、Louis Charles BEYLARD (ルイ チャールズ ベラー) によって作られた「神に捧げられたカシャの泉」と呼ばれる白い大理石で出来た噴水があった。また、4人のキューピットによって運ばれた箱の中にあったと言い伝えられる彫像は、現在カシャの泉の場所 (半円形の建物) の前にある。ポンブルームホールの装飾は、Albert BESNARD (アルベルト ベナード) による「アルカディアの泉のニンフ」という絵が大ホール西側の壁に飾られた。カシャポンブルームの運営は、1956年港の反対側に NOVARINA (ノバリナ) ポンブルームの設立により廃止された。

このカシャポンブルームの建物はスパリゾート建築物の中では最高傑作であり、エビアンにおける最も代表的なアールヌーボー (芸術品) である。

POINT OF EMERGENCE OF THE CACHAT SPRING (カシャの泉)

カシャの泉には、ひとつの言い伝えがあります。

昔、Rochette (ロシェット) 男爵には裕福で美しい娘 Beatrix (ベアトリックス) がいました。男爵は Allinges (アランジェ) や Coudree (クドリー) 地方の貴族との結婚を娘に尋ねました。しかし娘は、密かに父との家臣であり貧しいけれども勇敢な青年 Arndt (アーノルド) との結婚を望んでいました。ある日、男爵はなぞの病にかかります。そして、男爵は自分の病を治すことが出来る者に娘を譲ると宣言します。アーノルドは、Neuvecelle (ヌベセル) の大きな栗の下にいる hermit (世捨人) にたずねます。彼は、エビアンにある聖キャサリーの泉を男爵に飲ませるよう助言します。男爵は、この水を飲むとすぐに病が治り、娘との結婚を許しました。ベアトリックスとアーノルドの結婚式はリパーヤ城で行われたとのこと。

カシャの泉 (聖キャサリーの泉) は、エビアン市に数ある泉の中で最も有名です。その水の効力は 1790 年結石を患っていた Marquis de LESSERT (レザート公爵) により明らかにされました。それ以来幾度かの試験により慢性の泌尿器科系の病に効くことが立証されました。1826年、ジュネーブの商人フランシスコ フォンコーネントがカシャポンブルームの場所に最初のミネラルウォーター会社、水治療施設を設立。1878年カシャの泉は医学協会により高い評価を受け名声を高めていきました。また、同年世界品評会でも賞を受け、町による水治療、商売、エビアン水の国際的な評価は今も続いています。

THE FUNICULAR RAILWAY (フェニキュラー) 1907 - 1913

フェニキュラー・・・電気ケーブルカーは、1907年ミネラルウォーター会社からカシャの泉、スプリングホテル、ロイヤルホテルの客を運ぶために始まった。

1911年と1913年5月、140mの長さのトンネルを通り1902年にオープンしたプルナリウス水治療施設からエルミタージュホテルまで路線は延長された。木と鉄で作られた2つの客車は、60人の乗客を運ぶことができる。ベルンの鋳造業者がローザンヌのエンジニアKOLLER(コラー)により運営されているこの事業を任せられた。1957年、ミネラルウォーター会社は、赤字を理由にフェニキュラーの運行の停止を決定した。しかし2002年夏、30年の時を経て再びフェニキュラーは運行された。

THE FONTBONNE CASTLE (フォンボー城)

エビアンで最初の豪華な邸宅は、14世紀初頭 la Touvière (ラトヴィエ) 地区が中世、都市東側の城壁として建てられた。

スパリゾートに滞在していた Bedford (ベッドフォード) 公爵が18世紀の終わりにその城を手に入れる。その後、1886年に、ホテルに変えられたが、現在は個人の邸宅になっている。幾度かの改築によって建物は急角度の傾斜した屋根ペディメンタルに彫られ、壁柱がある長方形の窓を持ったルネッサンス風の外観を残す。

フォンボー城は、ラトビエ中世地区における最後の高貴な遺物である。

THE HYDROPATHIC ESTABLISHMENT (水治療施設) 1900 - 1902

1900年、パリの建築家 Ernest BRUNARIUS (アーネスト ブルナリウス) は、1826年、rue Nationale (ナショナル通り) に建てられた FAUCONNET (フォンコーネット) 施設にかわる新しい水治療施設を建てるよう命ぜられた。BRUNARIUS (ブルナリウス) 施設は、1902年2月16日に開かれた。

ガラスのレンガと石で出来た白と黄色の建物正面の上には、正方形の塔があり、その上にドームが置かれている。2つのタレット(小塔)は、中央のペディメントを形作っている。2つの絵画「泉のニンフ」、「水辺のニンフ」はホール入り口の両壁に飾られ、いずれも Jean D.BENDERY (ジョン ベントリー) の作品であると考えられている。レセプション(宴会) 社交場として使われた大きなホールは、ポンプルーム、待合室としても使われた。美しいステンドグラスの窓から光を取り入れられ、ホールの奥、四隅にはエビアンにある Cachat (カシャ)、Bonnievie (ボネヴィー)、Clermont (クレモント)、Cordeliers (コルドリエ) それぞれの泉の彫刻が置かれている。水は、La Vemaz (ヴェルニア) からの赤い大理石の水鉢の中に流れていた。白い大理石に彫られた彫像は Louis Charles BRYLARD (ルイ チャールズ ベラー) によるものである。ホールからエレベーターと階段で2階のギャラリーへと続く。建物の両側(男性用、女性用)には、近代的な設備(温水プール、電気、機械による治療設備)があった。施設では、毎年5月15日から9月15日まで一日1200以上もの治療を行ってきた。

この施設は、1984年、港前に建てられたエビアンスパバス(エビアンエステティックセンター) が建てられて後その運営を止めた。この建物は、20世紀初頭のスパタウン建築

物の中では美しい例である。そして、将来はエビアン市文化センターとして再建される予定である。

VILLA LUMIÈRE (ルミエ邸) late 19th century (19世紀後半)

最初の持ち主が1887年に亡くなり、未完成のままだったこの館は、1896年リヨンの裕福な資産家の子孫である写真家アントニールミエの夏滞在用の邸宅となった。新しい設計計画はジュネーブのCHEVALLIER(シャバリエ)建築会社に任せられ、ルミエはPaul PELISSIER(ポールペリシエ)に邸宅内の内装を頼んだ。

新クラシック様式の建物正面には大きな手すりのあるテラスがあり、そのテラスにはMICHELANGERO(ミケランジェロ)による「考える人」の彫刻のレプリカが置かれている。rue de Clermont(クレモン通り)側にある入り口には、Toulon Town Hall(トロン市役所)にも置かれているPUGET(プジョ)によって作られた巨大な彫刻が置かれている。入り口、両側の柱にはブロンズに彫られたレリーフ(浮き彫り)が飾られ、それは小さな映像フィルムのようなものである。1895年、アントニーの息子、Louis(ルイ)とAuguste(オーギュスト)は映画を発明した。ホールはリヨンの芸術家によって張り替えられた天井の下、オーク材で作られた階段にN.GRANDMAISON(グランメゾン)によるレリーフが飾られている。また、素晴らしいブロンズライオン像が階段吹き抜け部分を見上げている。現在、結婚式等に使われる金色に彩られた部屋は、贅沢な木材で作られた寄木細工の床、金色のコンソール(演奏台)、シマメノウでできたマントルピース(暖炉の前、側面の飾り)、シルクの壁紙で装飾されているロココ様式の家具が置かれているこの邸宅内のすべての部屋がリヨンからの木材やシルクで張られた壁で出来ている。1927年以来、エビアン市役所として使われている。

THE THEATRE (シアター、劇場) 1883 - 1885

1883年、エビアン市議会により建設が決められた。パリのオペラ座の設計を手掛けたCharles GARNIER(チャールズガルニエ)の弟子、Louis Clerc(ルイクラーク)が設計を担当。1885年夏に完成した。

立て溝に彫られた円柱を持つ新クラシック様式の正面には、ライオン像が置かれたコニス(軒)が取り付けられている。以前、劇場へは一階のホールを通り抜けて入る造りだった。二階はガラスと入念に作られた鉄の歩道橋でカジノ(当時はブローネ城だった。)とつながれていた。古いバルコニーに続く手すりのある階段は、最近取り付けられた。280人の観客を収容できる部屋は、19世紀後半、NEGRI(ネグリ)によって美しく色とりどりに、また金色に装飾された。1892年以来ミネラルウォーター会社によって運営され劇場は、スパタウンの重要な娯楽施設のひとつであった。過去数年に亘り修復されたが、現在もなお劇場として使われている。

THE CASINO (カジノ) 1911 - 1912

水治療施設、劇場と並ぶカジノは、「スパタウン」の重要な施設のひとつであった。

1887年、Louis Ennemont de Blnay(ルイエネモドゥプロネー)男爵は、17世紀の

城とその附属の建物を町に残した。1878年からその建物の前には、ギャンブルルーム(賭博場)、後ろには水治療施設、温泉が作られた。1892年5月10日ミネラルウォーター会社は、町に対して建物をカジノとして使用できるよう交渉した。1911年、建物は取り壊され、建築家 J.A.HEBRARD (エブラル) が新しいカジノの設計を任せられた。新しいカジノは1912年6月23日に開かれた。エブラルは、カシャポンプルーム、ロイヤルホテルの設計も手掛けている。建物二階には大きなホールがあり、列柱を持つ棧敷からそのホールを見下ろせる。(現在はガラス窓で閉められている。) 建物内の側面にある階段は庭からホールへとつながれている。エブラルは新しいビザンティン様式に影響を受け、丸天井(キューポラ)のある建物をつくった。キューポラを支える円筒形の壁には、スカラップ(扇形の縦模様)で縁取りされている。

以上